

vol.2 体験することで得た学びを 今後の環境保全活動につなげていけるように。

Q. 海外研修に参加しようと思ったきっかけは何ですか。

『日本と海外の自然環境は違う』と言いますが、「具体的に何がどう違うのだろう」と疑問でした。もちろん、SNSを使えば違いが検索できたり、動画を見たりすることもできますが、「実際に自分の目で確かめたい!」と思ったのが今回の海外研修の参加を決めたきっかけです。



樋口 華恋さん
環境情報学部3年（環境科学専攻）
松本第一高校出身

Q. 印象に残ったことを教えてください。



オーストラリア研修で体験した環境保全学習プログラムはどれも貴重な体験でした。なかでも私が印象に残っている体験は、環境保全プレゼンテーションと野生イルカの餌付け体験です。

環境保全プレゼンテーションでは、海岸に植物の苗を植える活動が印象深いです。レンジャーの方が砂浜に水をかけると、かけた場所がえぐれてしまうのですが、砂浜にある植物の上や苗の上に水をかけると、水が植物をつたって分散するので砂浜はえぐれていきませんでした。このことから、海岸に植物の苗を植えることで波による海岸の浸食を防ぐことにつながることを知り、砂浜に植物があると景観が良くなるだけでなく、緑を増やす環境保全にもつながっていることを学びました。

野生イルカの餌付け体験では、人間と野生イルカの距離の近さに驚きました。オーストラリアと日本の海では水温や海岸の地形が違ったりと異なる部分はたくさんあると思いますが、日本でも同じように野生動物と人間の距離が近く共存できる社会にしていきたいなと思いました。

Q. 研修を通して感じたことを教えてください。

研修を通して、『興味のある分野に参加する大切さ』を改めて感じました。海外研修ということもあり、「学びたいことが英語で伝えられるか、理解できるのか」という言葉の壁が一番不安でしたが、研修中は身振り手振りも使って質問したい内容をレンジャーの方に伝えることができ、充実した時間を過ごすことができました。「自然環境について学びを深めたい!」という熱意が、海外研修に向けた英語の勉強を頑張るモチベーションにもつながったと思います。今回の海外研修で得た学びを今後の研究に活かしていきたいです。



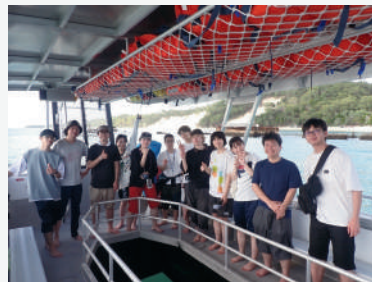
落合 海吏さん

総合政策学部4年（公共政策専攻）
四日市四郷高校出身

vol.3 行ってみなければ気づけないことがたくさんある。 新しい発見を今後のまちづくりに活かしたい。

Q. 海外研修に参加しようと思ったきっかけは何ですか。

僕のモットーは「やることは全部やる勢いで!」なんです。そもそも僕は高校3年生の時に高校を卒業してすぐ公務員になろうと思っていました。でも、大学生のうちにできる学びやいろんな活動の経験を経てから公務員になるという選択肢も知り、大学進学を決めました。なので、これまでも防災ボランティアや市議会モニターなどにも参加したり、履修できる環境情報学部の授業もとったりしてきました。今回の海外研修も「オーストラリア海外環境研修」と、名前だけ見ると総合政策学部の学生には一見無縁そうに感じますが、日本と海外での人々の生活や文化、都市構造の違いを見て、知識を深めたいと思い研修への参加を決めました。



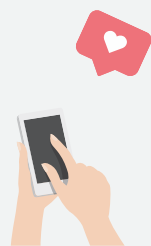
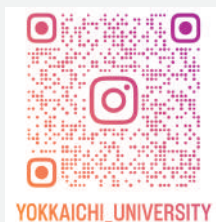
Q. 印象に残ったことを教えてください。

ブリスベン市内の街並みが印象深いです。もちろん日本国内でも、都心と郊外、観光地など場所によって景観には違いがありますが、ブリスベンの街並みは空間の使い方が日本とは違うなと感じました。美術館に限らず、街に彫刻作品が展示されていたり、ウォールアートがあったりと、街並みとアートが一体となっていて、ブリスベンの街を歩いていてとても楽しかったです。

Q. 研修を通して感じたことを教えてください。

今回の海外研修は、新しい発見の連続で貴重な体験がたくさんできました。僕は将来的にまちづくりや都市デザインに関する仕事がしたいと考えているのですが、日本と海外の街並みの違いを実際に見れたことは、今後まちづくりを考えていくうえで、日本にいただけでは考えつかなかった発想につながっていくと思います。日本の文化を大切にしながら新しい都市デザインを考えていけるように、研修で学んだことを活かしていきたいです。

学生たちの活動や
オープンキャンパスの最新情報は
Instagramをチェック!



〔発行〕入試課
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200
〔受験生サイト〕
<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/admission/>



四日市大学の最新情報をお届け!



campus for you

15
2025.01~03

contents

- P.1 ▶オーストラリア環境研修で環境問題について考える
P.2 ▶わかもの学会大会が開催されました
▶第25回四環展にて4年間の活動成果を発表
▶音情報研究室×暁高校合唱部、録音会

- P.3 ▶四日市市議会意見交換会を行いました
▶夢の実現に向けて～ソロプチミスト受賞～
▶2024年度四日市大学地域連携フォーラム
P.4 ▶student's Interview

Topic 01 オーストラリア環境研修で環境問題について考える



ミニ解説

～主な環境学習プログラムの内容～

- ・海洋生物 & 自然環境保護プレゼンテーション
- ・SDGsプレゼンテーション & ウォーク
- ・地学プレゼンテーション
- ・デザートサファリアツアール
- ・マリンディスカバリー・クルーズ
- ・野生イルカの餌付け体験

など

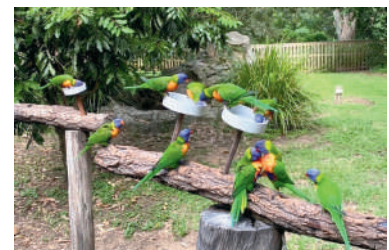
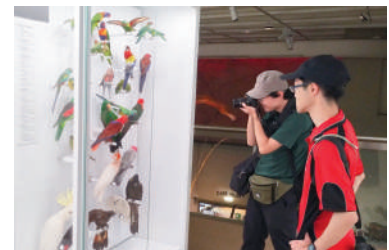
2月11日から4泊6日の日程で、オーストラリア・クイーンズランド州のモートン島およびブリスベン市内にて海外環境研修を実施しました。環境情報学部の学生9名と総合政策学部の学生2名、計11名の学生及び引率の野呂達哉准教授が参加しました。前半はブリスベンの北東40 kmに位置するモートン島を訪れました。宿泊先のタンガルーマ・アイランド・リゾートでは楽しみながら体験できる多様な環境学習プログラムが用意されており、海洋生物の保護対策、リゾートビジネスと環境保護の活動を持続的に行うための取り組みなど、各専門のレンジャーから様々なレクチャーを受けることができました。

フィールドワークでは、モートン島の森を散策し生物や景観を体験するブッシュウォーキングを行いました。夜間の散策では、カーペットニシキヘビやイエアメガエル、オオコウモリなどを見つけることができ、オーストラリアの自然の豊かさを実感することができました。



後半はブリスベン市内のクイーンズランド博物館、ローンパイン・コアラ・サンクチュアリなどを巡りました。クイーンズランド博物館では、クイーンズランド州の動植物、自然史、先住民文化などに関する豊富なコレクションを展示しており、とても半日では回り切れない展示の量に圧倒されました。ローンパイン・コアラ・サンクチュアリでは、カモノハシといった珍獣や園内に住みつく野生のトカゲ類、オウム類など、日本ではなかなか見ることのできないオーストラリア特有の動物を間近で観察することができました。モートン島でも同様ですが、人が近づいても逃げない野生動物やゴミが全く落ちていないことが大変印象的でした。

今回の研修を通して、オーストラリアの自然の豊かさを実感すると同時に、環境先進国であるオーストラリアの環境保全に関する真摯な取り組みについて参加した学生は心に残る多くのことを学ぶことができたと思います。



Topic 02 わかもの学会大会が開催されました

2月11日、「第11回 四日市大学わかもの学会大会」を開催しました。

今年も各学部から選抜された8組の学生に加え、今回は暁高等学校からも1名の学生が参加し、この日のために準備を重ね、研究成果や制作活動の発表に臨みました。

発表は各組15分（発表・質疑応答含む）で進行し、どの発表もわかもの学会大会にふさわしい、熱意あふれるものとなりました。鋭い質問にも真剣に答える姿に大きな拍手が送られ、参加者からは「身近なテーマが多く興味深かった。今後も継続して研究発表してほしい」などの声が寄せられました。

学生発表後には、環境情報学部の学生が制作した映像作品の上映が行われ、審査結果の発表を待ちました。審査の結果は以下の通りです。



結果	テーマ・発表者 / 指導教員
最優秀賞 会場特別賞	名古屋港富浜のカサゴの内臓に含まれるマイクロプラスチック調査 環境情報学部4年 鈴木 紅龍 / 指導教員：千葉 賢
優秀賞	鈴鹿山脈のブナ林におけるキンキコリクワガタの分布特性 環境情報学部4年 山本 昂世 / 指導教員：野呂 達哉
優秀賞	四日市市魅力再発見アプリの開発 環境情報学部4年 松下 健太郎 / 指導教員：片山 清和

Topic 03 第25回四環展にて4年間での活動成果を発表



1月29日・30日の2日間にわたって「第25回四日市大学環境情報学展」（四環展）が開催されました。四環展は、環境情報学部をあげて開催する年に1度のアカデミックイベントで、口頭やポスターによる研究発表に加え、スタジオでの制作コンテンツ展示や映像作品上映会など、4年生の卒業研究・卒業制作の成果発表を中心に環境情報学部学生の活動成果が発表されました。四環展開催期間中は、学生や地域の方などたくさんの来場者で大盛況となりました。

Topic 04 音情報研究室×暁高校合唱部、録音会

1月7日、四日市大学音情報研究室と暁高校合唱部による合同の合唱録音会が開催されました。暁高校合唱部は約60名の部員を擁し、コンクール参加や市の行事への出演、定期演奏会の開催など、活発な活動を展開しています。今回の録音会では、能登の復活をテーマに弓削田健介氏が作曲された合唱曲「フェニックス」を中心に、合唱アンサンブルの収録を実施しました。

過去には福島県葛尾村立葛尾小中学校の校歌を暁高校合唱部が歌い被災地へ届けるなど、高大連携による音楽を通じた応援を行っています。



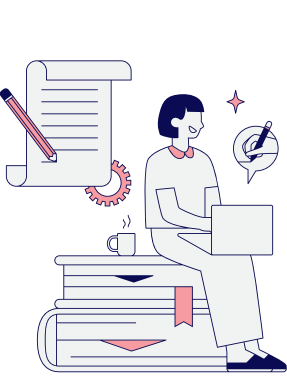
Topic 05 四日市市議会意見交換会を行いました

四日市市議会所属の現役議員と若い世代との意見交換会「ワイ！ワイ！GIKAI」を、総合政策学部で開講されている「地方議会議論」の一環として開催しました。今回は四日市市議会の都市・環境常任委員会に所属されている計8名の市議会議員にお越しいただき、①市議会・市議会議員について、②四日市市の中心市街地再開発事業についての2トピックに焦点をあてて意見交換を行いました。

地方議会という存在は地域に密着し、私たち住民にとって最も近くにある政治の場であるにもかかわらず、学生にとってはなかなかその存在を身近に感じずらいものです。今回の意見交換会を通して、座学やニュース報道だけでは見えてこない地方議員の仕事ぶりや人柄に触れ、より地方議会を身近なものとして感じられる機会になったと思います。



Topic 04 夢の実現に向けて～ソロプチミスト受賞～



山口倫実さん（環境情報学部2年）が、国際ソロプチミスト三重支部から、リジョナルプロジェクト『大学女子学生・専門学校女子学生支援金』（リジョン 夢を生きる賞）の三重支部賞を受賞しました。

この奨学金は、目的を持って専門技術や特別な資格を取得するために励む女子学生を支援する趣旨で募集されたもので、授与を受けた女子学生が「夢を生きる」ことを実現するための支援です。山口さんは、海洋生物や環境保全、種の多様性の保存に関する専門的な知識を身につけ、将来はアクアリストになることを目指しています。そのために海洋実習に参加したり、「スペシャリスト育成プログラム」で鯨類の生態について研究を始めています。その目的に向かって努力する高い志が評価され、三重支部から日本中央リジョン区域への推薦が決まりました。

Topic 05 2024年度四日市大学地域連携フォーラム

2024年度四日市大学地域連携フォーラムが、3月8日に開催されました。

地域連携フォーラムとは、本学が組織的に取り組んでいる特定プロジェクト研究の報告会です。今回は、3件の特定プロジェクト研究成果報告がありました。

本学は、地域住民の方々と連携し、地域課題の解決に今後も取り組んでまいります。

テーマ・発表者	研究報告概要
「地域農業遺産『マンボ』と コウモリを通じて構築する環境配慮型農業モデル」 廣住 豊一（研究代表者・環境情報学部教授）	地域の貴重な農業遺産であるマンボと、そこに棲息するコウモリに着目し、これらが周辺の農業用水や地下水の品質に与える影響を調査したところ、以下のことが判明した。 ・コウモリの生息調査では、音声・DNA分析などコウモリへの影響が少ない手法による有用性が確認できた。 ・洞穴性コウモリ類の貴重な生息場所としてマンボを残していくことが重要である。
「実践する総合政策」 三田 泰雅（研究代表者・総合政策学部教授）	名張市内事業所の従業員を対象に2024年8月から9月にかけてwebでのアンケートを実施したところ、以下の結果が得られた。 <地域の住みやすさ> <空き家> ・既婚・子ども有の人、特に女性の満足度が低い ・両親とも死亡している場合のほか、近居の場合にも空き家になりやすい ・ジェンダーギャップや育児支援に課題がある可能性 ・別居慣行の普及によって老親の死後に空き家が発生する <職場の働きやすさ> ・立地を重視して職場が選択されている ・周囲が質の高い仕事を志したり、自分の意見が職場で重視されていると、勤続意向が短くなる傾向がある ・職場の緊張感がプレッシャーになっている可能性 ・一方で成長機会の実感は職場への満足度を高めている
「先端デジタル技術を用いた 地域教育資源のデジタルアーカイブ構築」 黒田 淳哉（研究代表者・環境情報学部准教授）	本学のスタジオに残されている過去の記録や学生制作の映像作品等多くのアナログメディアのリマスタリングとデジタルアーカイブに着手し、下記の成果が得られた。 ・テープ表面に付着したカビを無水エタノールと専用のクリーニングクロスを用いて除去することにより、多くのVHSテープが再生可能な状態へと回復し、データ抽出の準備が整った。 ・動画や音声を変換するためのコマンドラインツールFFmpegを用いてフレームごとにPNGファイルへ変換し、分割の処理により、映像の各フレームを個別の静止画として取得でき、後の画像解析やAI技術を活用した品質向上作業に適したデータ形式へと変換することが可能となった。